

③ 自分を守るためには

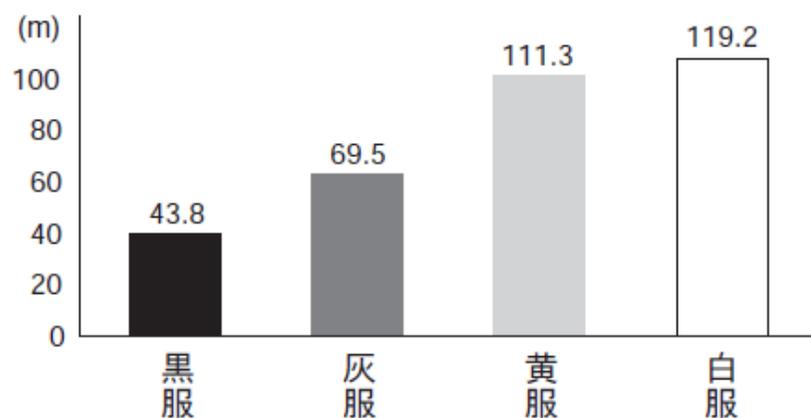
トラックや乗用車と比べ、バイクは車体が小さく、他の車から見落とされやすいので、次のことに気を付けて運転しましょう。

1 相手から見られるために

バイクは、他から見落とされやすいので、被視認性をよくするために昼間も自動点灯するようになっています。また、事故の約半数は夜間に起きています。夜間、バイクに乗るときは、よく目立つ色のウェアを着たり、ヘルメットやウェアに夜光反射材をつけるなどして被視認性をより向上させましょう。



●夜間における被服色彩別視認距離(条件：前照灯下向き)
(平均視認距離)



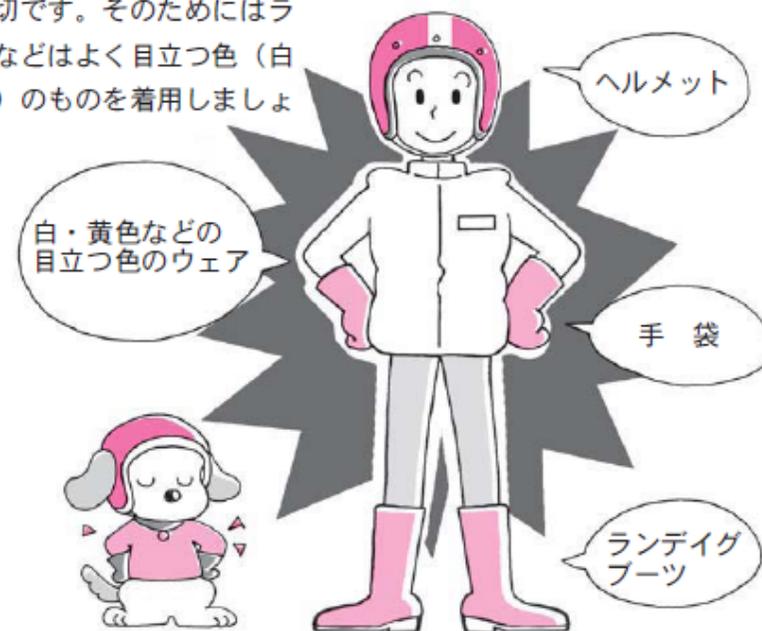
<実験の状況>

この実験では、学生20人(年齢36~46歳、各年齢1~2、視力0.7~1.5)を交互に乗用自動車に乗車させ、それぞれの場合における視認状況等を観察させ、その結果を記録した

(全日本交通安全協会「反射材」より)

2 よく目立つ服装

被視認性(相手からの見えやすさ)を高めることが大切です。そのためにはライダー・ウェアなどはよく目立つ色(白色、黄色、など)のものを着用しましょう。



3 ヘルメットをかぶりましょう

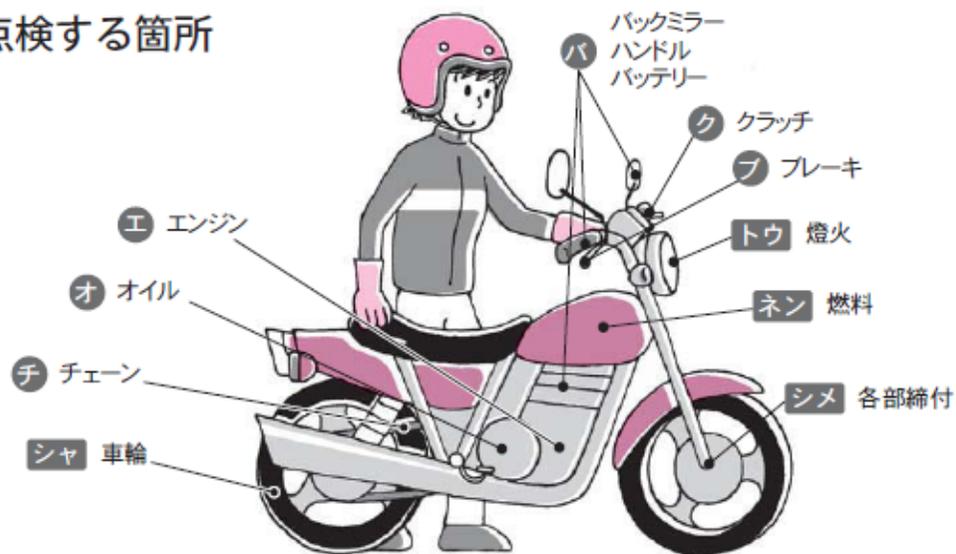
バイクに乗るときは、ヘルメットを着用することが義務づけられています。自分を守るためにも必ずPS(C)マークやJISマークのついた安全なヘルメットを正しくかぶりましょう。二輪車乗車中の死亡者の約半数は、頭部の損傷によるものです。勿論、あごひもはきちんと締めましょう。



4 整備や点検は十分に

点検は車の健康診断です。車の機能をいつも最良の状態に保つことは、ライダーの安全に不可欠なことから、車を運転する前に必ず点検をしましょう。

点検する箇所



ネン	燃 料	ガソリン漏れはないか。適量か。	フ ブレーキ	ブレーキの遊びは適正か。
オ	オイル	エンジンオイルは適量に入っているか。汚れていないか。	ク クラッチ	クラッチの切れ、遊びは適正か。
シャ	車 輪	タイヤの空気圧はよいか。タイヤ亀裂はないか。	トウ 燈 火	ライト類はそれぞれ完全か。
チ	チェーン	チェーンのたるみは適正か。	バッテリー	バッテリー液は適量か。バックミラーの位置、汚れはどうか。ハンドルにくるいはないか。
エ	エンジン	エンジンの音は変わらないか。オイル漏れはないか。	シメ 各部締付	ナット、ネジの締付はどうか。

※また、自分の点検で手に負えない異常があるときは、二輪車販売店で点検・整備を受けてください。

5 不正な改造はやめましょう

せっかく安全性を十分考えて作られているバイクのマフラーを取り外したり切断する等の改造をしてはいけません。またナンバープレートを曲げて見えにくくしたバイクを運転すると法令に違反します。



6 危険を予測した運転をしましょう

バイクを運転する時の注意力は路面に集中しがちです。このため交通環境にひそむ「危険」に対する発見の遅れが大きな原因となって重大事故が発生しています。危険を予測した運転に努めるようにしましょう。



7 過信や慢心は命とり

運転免許を取ってから1年以内に事故を起こす確率が高く、経験をつむと事故率は低くなります。ところが、運転歴10年以上のライダーの事故も少なくありません。これは、運転未熟というより、むしろ過信や慢心など精神的原因によるものでしょう。何年経っても、基本に忠実な運転を心がけましょう。



二輪車用プロテクター 装着のお願い

二輪車事故被害の軽減のために！
ヘルメットの着用はもちろん、あなたの身を守るために



●プロテクタージャケット



●エアバッグジャケット



●ボディプロテクター

バイクの安全な乗り方
